２０２５年１０月３日
厚　　真　　町
公益財団法人イオン環境財団

１０月１１日（土）「厚真町さくら植樹」を実施

地域のみなさまの憩いの場となることを願い４００本を植樹

北海道勇払郡厚真町（町長 宮坂尚市朗）と、公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長 以下、当財団）は１０月１１日（土）に「厚真町さくら植樹」を実施します。

北海道南部に位置する厚真町は、町内の７割に森林が広がるみどり豊かな町です。中央を流れる厚真川を中心に美しい田園風景が広がり、稲や野菜などさまざまな農作物が育っており、特産物のハスカップの栽培面積は日本一を誇ります。

当財団は、２０１５年から３年間、厚真川上流部周辺のレジャー施設跡地に、水源涵養機能の回復や防災上の観点から、地域の皆さま１，８００名と１６，４００本の植樹を実施しました。
２０２１年は、当財団設立３０年記念事業の「さくらの名所づくり」にて、北海道胆振東部地震の震源地で大きな被害を受けた吉野地区にエゾヤマザクラとヤエザクラを３０本植樹し、２０２２年から２０２４年は、幌内地区の厚幌ダム工事の発生土を盛土として、エゾヒガンザクラとエドヤマザクラを３５０名の皆さまと２，５００本植樹しました。
これまでに、累計２，７３０本のさくらを復興への願いを込めて植えています。

本年は、町有林伐採跡地に１５０名の皆さまと４００本のエゾヤマザクラの植樹を行います。同町におけるエゾヤマザクラ、ヤエザクラの植樹は累計で３，１３０本となり、「さくらの名所」として地域のみなさまの憩いの場になることを願って植樹します。

今後もひとつしかない地球を次代へ引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日　時	２０２５年１０月１１日（土）１０：３０～１１：３０		
場　所	北海道勇払郡厚真町字本郷２３１－１		
本　数	４００本（エゾヤマザクラ）		
参加者	１５０名		
主　催	厚真町・公益財団法人イオン環境財団		
協　力	イオン北海道株式会社		
出席者	厚真町	町長	宮坂　尚市朗
	イオン北海道株式会社	代表取締役社長	青柳　英樹
	公益財団法人イオン環境財団	専務理事	山本　百合子

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（当財団名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした民間企業単独の財団法人として１９９０年に設立されました。以来「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の４つの事業活動を中心に活動しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

万里の長城で１００万本の植樹をはじめ、国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的にアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施しています。イオン全体の植樹本数は、１９９１年から累計約１，２７６万本を超えています。（２０２５年２月末時点）

【北海道での植樹活動】

■ ２００２年～２００６年 知床

北海道斜里郡斜里町は、１９７７年、乱開発の危機にさらされていた知床の開拓跡地を買い取り植樹し、みどりを回復させることを目標に「しれとこ１００平方メートル運動」に取り組まれてきました。当財団は本運動に賛同し、２００２年から２００６年までの５年間で１，６１０名のボランティアの皆さまと累計９，０００本を植樹しました。

■ ２００７年～２０１１年 支笏湖

２００４年の台風１８号による樽前山麓の森林被害は、当時道内最大規模で、この地を命はぐくむ森に再生するため、５年間で５，２０３名の皆さまと累計３９，６００本を植樹しました。また２００８年６月には、Ｇ８北海道洞爺湖サミットと同時開催された「Ｊ８ユースサミット」に世界各地から来日した子どもたち１００人が植樹を実施しました。

■ ２０１２年～２０１４年 むかわ町

むかわ町は森林が約８割を占め、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいたことから「魚つきの森を守ろう」と森を守ることで川を守り、海を守るべく、３年間で１，７３５名のボランティアの皆さまと、累計１６，０００本を植樹しました。

■ ２０１９年～２０２１年 南富良野町

町の総面積の約９割が森林の自然豊かな地域で、２０１６年、台風１０号の空知川の増水で甚大な浸水被害が発生しました。当財団と町は災害から地域を守りみどりあふれる森の再生を目指し３年間で６５０名のボランティアの皆さまと、累計７，０００本を植樹しました。

■ ２０２４年～２０２５年 興部町

農業・酪農に影響を与えるオホーツク海の潮風を防ぐため、１９５９年より防風林が設置されていましたが、６５年経過し防風林の更新が必要となっていました。２０２４年７月に、当財団と興部町・オホーツク中央森林組合の三者で協定を締結し、興部町宮下地区の防風林約３haを更新する５年計画をスタートしました。２０２４年からの２年間で、植樹面積2ha植樹本数６，０００本植樹しました。

２０２４年厚真町

２０２５年興部町